

桑名にもっと音楽を...

桑名西ロータリー・クラブ 創立二十周年記念特別演奏会

# 桑名菖蒲コンサート



1998年6月7日(日)

桑名市民会館

午後1時半開演(午後1時開場)

主催:桑名西ロータリークラブ

協賛:桑名ロータリークラブ・桑名中央ロータリークラブ

後援:桑名市教育委員会

連絡先:桑名西ロータリークラブ TEL0594-21-6253





## ごあいさつ

桑名西ロータリークラブ会長 山本重雄

ようこそ桑名西ロータリークラブ創立20周年記念「桑名菖蒲コンサート」へおいで下さいました。82名の会員とその夫人たちがこぞってみなさまを歓迎いたします。今年、このように私たちのクラブが創立20年をめでたく迎えることができましたのも、桑名のみなさまのおかげです。その感謝の思いを直接みなさまへお伝えしようとするこのコンサートとなりました。ベートーヴェンは「私の音楽は心から心へいって欲しい」と「荘厳ミサ曲」の楽譜に書きつけたそうですが、本日の音楽も、私たちのこの心が直接みなさまに伝わることを願っています。どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。



## 菖蒲のように

創立20周年記念実行委員長 伊藤功三

本日の演奏会は西クラブならではの多くの魅力と特色に富んだものと自負しております。私たちが選び育ててきた新進演奏家のみなさまが、本日この桑名の地に一堂に会して20周年を祝ってくださることになりました。そろって立派に成長して、菖蒲のようにすっきりした姿に接することは大きな喜びであり、桑名のみなさまに彼らの素晴らしい演奏をご披露できますのはそれに優る喜びです。また、地元で活躍する桑名弦楽合奏団のみなさまをこのコンサートにお招きできたことも、これからの桑名の音楽文化発展のために資するところは大きいものと考えます。名実共に桑名を代表する音楽団体として、ますますのご発展とご活躍を祈るものです。音楽好きが多い西クラブですが、特に会員の一人がオーケストラの指揮をするのも今回のコンサートの特色の一つです。春日井市交響楽団のフル・オーケストラの響きは、みなさまにより親しく響くことでしょう。本日おいでいただいたみなさまはむろんこと、ご出演下さったみなさまに厚くお礼申し上げます。また全員合唱「ふるさと」の編曲者小島千絵子さまにも感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新しい音楽文化の花園

桑名菖蒲コンサート実行委員長 佐藤剛一  
音楽監督 都築正道

みなさま本日はようこそおいで下さいました。伝統ある文化都市桑名は、音楽文化においても優れたものがあります。ご存知のように、桑名弦楽合奏団や桑名吹奏楽団やシャンテ・クレールや桑名市民合唱団やそのほか多くの合唱団の活躍があります。優れたソリストもたくさんいます。世界的に活躍する演奏家も作曲家もいます。どれも極めて優秀な方たちばかりです。ただ、残念なことに市民オーケストラがありません。オーケストラは都市の顔です。文化都市桑名にそろそろオーケストラが生まれても良いころです。桑名の音楽文化の核となる市民オーケストラがあれば、多くの演奏団体やソリストや作曲家の活躍の場が格段に増えることでしょう。あの桑名市制50周年を記念して開催された「日本の第九」の感激を再び私たちのものにするのも可能です。外国の優れた演奏家との共演を目の当たりにする楽しみもあります。夏には野外で演奏会を開きましょう。古都桑名には多くの歴史的名所があります。水郷の街桑名には多くの自然があります。花の街九華(くわな)には美しい公園があります。お弁当をもって家族そろって揖斐川の河川敷へポップス・コンサートを聴きに出かけるのはいかがでしょう。そういった音楽的環境を桑名に造ることは決して難しいことではありません。本日のようなコンサートがたくさん開かれて、本日のようにたくさんみなさまが聴きにおいでいただくだけでいいのです。「桑名菖蒲コンサート」を機縁として、桑名にまた一つ新しい音楽文化の花園が生まれることを願っています。

## プログラム

### 1 新世紀をになう若者の音楽で始めましょう

—桑名西ロータリークラブ新進音楽家奨励賞受賞者による演奏—

- |  |  |
|--|--|
| 1 「アデライーデ」 ベートーヴェン作曲                                 | テノール 三山博司(第3回受賞者)<br>ピアノ 甚目裕夫                          |
| 2 「もし、私ができなくても」『六つのアリエッタ』より<br>「ああ、信じられぬ」歌劇『夢遊病の女』より | ベルリニーニ作曲<br>ベルリニーニ作曲<br>ソプラノ 松井麻由美(第7回受賞者)<br>ピアノ 伊藤宏美 |
| 3 「スケルツォ タランテラ」 ウィニアフスキー作曲                           | ヴァイオリン 神谷美穂(第8回受賞者)<br>ピアノ 甚目裕夫                        |
| 4 「ベイビー・プレイズ・アラウンド」 E. コステッロ作曲                       | バリトン 広田繁之(第2回受賞者)<br>ピアノ 宮崎圭介                          |
| 5 「演奏会用ソロ第6番」 J. ドゥメルスマン作曲                           | フルート 大竹由夏(第10回受賞者)<br>ピアノ 下園朗子                         |
| 6 「トランペット協奏曲ホ長調」第1楽章<br>J.G.B. ネルーダ作曲                | トランペット 松野美樹(第1回受賞者)<br>ピアノ 稲垣亜希子                       |

### 2 桑名を代表して

「動物の謝肉祭」 サン＝サーンス作曲

演奏 桑名弦楽合奏団

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1 序奏と堂々たるライオンの行進 | 8 耳の長い紳士   |
| 2 オンドリとメンドリ      | 9 森の奥のカッコウ |
| 3 ロバ             | 10 大きな鳥かご  |
| 4 カメ             | 11 ピアニスト   |
| 5 ゾウ             | 12 化石      |
| 6 カンガルー          | 13 白鳥      |
| 7 水族館            | 14 終曲      |

## 休憩

### 3 フルオーケストラの壮大な響きを楽しみましょう

歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲

グリムカ作曲

交響曲第3番「英雄」第1楽章

ベートーヴェン作曲

演奏 春日井市交響楽団  
指揮 都築正道

### 4 さあご一緒に歌いましょう

「ふるさと」

作曲 岡野貞一  
編曲 小島千絵子(委嘱)  
演奏 桑名弦楽合奏団  
春日井市交響楽団  
合唱 シャンテ・クレール  
指揮 都築正道

\* 司会とお話 都築正道 \*



## 曲目解説

さあ、みなさんにクラシック音楽がどんなに楽しく・  
どんなに面白く・どんなに感動的であるかを  
ご紹介しましょう。

### 新進演奏家による演奏

三山博司さんは美しい声のリコ・テノールです。恋人の名を呼ぶ「アデライーデ」を歌います。ソプラノの松井麻由美さんは、軽いさわやかな声の「レジェロ」です。ベルリーニのベルカントの歌曲から「もし、私ができなくても」と彼の歌劇『夢遊病の女』からアリア「ああ、信じられぬ」を歌います。ヴァイオリンの神谷美穂さんは技巧派ですから、ウイニアフスキーの難曲「スケルツォ」と「タランテラ」を奏いて私たちを驚かせてくれることでしょう。豊かな表現力と力強い歌唱力を持つバリトンの広田繁之さんは、コステッロの「ベイビー・プレイズ・アラウンド」を歌います。今年度の受賞者、フルートの大竹由夏さんはフランスのフルートの名手ドゥメルスマンの「演奏会用ソロ第6番」を演奏します。彼女の初々しさが楽しみです。最後は、第1回の受賞者、トランペット松野美樹さんです。東京を中心にソロ活動を続けていて、いまはもうベテランです。ネルダーの「トランペット協奏曲ホ長調」で彼の得意とする甘い黄金の輝きを楽しめます。

### 「動物の謝肉祭」

フランスの作曲家サン＝サーンス(1835-1921)の「動物の謝肉祭」(1922初演)を桑名弦楽合奏団の演奏でお聴き下さい。全部で14の小さな曲から出来ている室内楽組曲です。それぞれの曲に動物の名前がついていて、「ライオン」(1)が堂々と行進したり、オッフェンバッハの「天国と地獄」の速い曲を「カメ」(4)の歩みに合わせてわざとゆっくり演奏してみたり、「カンガルー」(6)がびよんびよん跳んだりします。

毎日同じ音階練習ばかりしている「ピアニスト」(11)も動物の仲間に入れられます。「耳の長い紳士」(8)はロバを、サン＝サーンスの「死の舞踏」やロッシーニのアリアなどが出てくる「化石」(11)は「古くて聴いてられない」ことを表わしているのでしょう。チェロが奏く「白鳥」(13)はもうおなじみですね。「終曲」(14)では全員が登場します。一斉に「天国と地獄」のフィナーレを演じて騒々しい内に幕となります。さて、なぜ、この曲が「動物の謝肉祭」なのでしょう。謝肉祭は、断食を前にしたキリスト教のお祭りで、仮面をかぶり仮装をして数日間飲めや歌えの大騒ぎをします。時には動物の姿をする人たちも出てきました。「人間が扮する動物の謝肉祭」なのか、「動物が扮する人間の謝肉祭」なのか大いに考えさせられるところです。

### 歌劇「ルスランとリュドミーラ」序曲

ロシアの作曲グリムカ(1804-1857)が書いた歌劇の序曲です。悪魔にさらわれた娘リュドミーラを若者ルスランが助け出

す「救出物語」です。これほど爽快で元気の出る音楽はありません。最初から最後まですさまじいほどの速いテンポで演奏され、私たちの目の前を音楽が一気に駆け抜けます。愛するリュドミーラを抱きかかえて必死に馬を駆るルスランの姿が目には浮かびます。時には悪魔となって、時には駿馬となって、一生懸命に奏く楽団員の姿もなんと感動的ではありませんか。そうです、この序曲は、聴くだけではなく見る音楽でもあるのです。

### 交響曲第3番「英雄」

ある日、友人のクッナーがベートーヴェン(1770-1827)にたずねました。「あなたの交響曲のなかでどれが一番好きですか」「エロイカだよ」「私は『5番だ』とおっしゃるかと思っておりましたが…」「違う、全く違う。エロイカ、エロイカだよ」とベートーヴェンは答えました。「エロイカ」とは「英雄」のことで、1805年にウィーンで初演されたベートーヴェンの「交響曲第3番」をいいます。ベートーヴェンも「英雄交響曲」が好きであったように、私たちもこの曲が大好きです。本日クラリネットを吹く春日井市交響楽団の花村浩克団長も、「なんか練習してもそのたびにいい曲だなあと思う」と感激しきりです。私たちがこの交響曲のどこが好きかといえば、三つあります。「意外性」と「物語性」と「偉大さ」です。

リズムが面白い。第1楽章は交響曲には珍しく3拍子です。でも急に2拍子になったりまた3拍子になったり、管楽器が行進曲の2拍子を吹いていると弦楽器がその裏で3拍子の舞曲を奏いたり、2拍子と3拍子が一緒に出てきたりします。突然変な転調をしたり、強弱が極端に入り交じって出てきたりで、この意外性が最高。それに、色々なメロディが次から次へと出てきて、私たちにたくさんのおしゃべりしてくれます。戦争・慰め・愛・英雄を悼む葬送行進曲など、物語で溢れています。私たちは長編小説を読んでいるような満足感を覚えます。それに、「英雄」がナポレオンであれどあれ、この音楽にはなにか偉大なものが感じられます。今日は演奏しませんが、終楽章は変奏曲形式をとって、変奏主題は、彼自身のバレエ組曲『プロメテウスの創造物』からの借用です。ベートーヴェンは、「本当の英雄とは人類に火をもたらしたプロメテウスだ」といいたかったのでしょう。むろん、これはベートーヴェンの自負でもあります。この曲が大好きな春日井市交響楽団の演奏を聴いたみなさまも、きっと大好きになることでしょう。

### 「ふるさと」

さあ、お待たせしました。みなさまの出番です。本日の出演者とご一緒に「ふるさと」を歌いましょう。フル・オーケストラが伴奏します。編曲は新進音楽家奨励賞の特別賞を受賞した斉木由美さんの教え子小島千絵子さんをお願いしました。シャンテ・クレールのみなさんがソングリーダーをつとめてくれます。では、大声でどうぞ。



# 出演者紹介

## 新進音楽家奨励賞受賞者

「少しでも若い音楽家のみなさんのお役に立とう」と創立10周年を記念して新進音楽奨励賞を設けました。正賞は表彰状と桑名万古焼きの陶芸家加賀瑞山作(当クラブ会員・桑名市無形文化財)の高坏で、レッスン代として副賞20万円が贈られます。対象は、音楽大学か大学院に在学している学生で、北勢地区の出身者で、プロの音楽家をめざす才能ある

若者で、真摯に自己研鑽につとめている人に限定しました。ただし、比較的恵まれた音楽環境にあるピアノ専攻の学生はのぞきます。今年で10回を迎え、11人のみなさまが受賞されました。特別賞は、世界的に活躍している作曲家の斉木由美さん(現在同志社女子大学助教授・桑名市出身)とピアノの塚本聖子さん(桑名市出身)の二人に与えられました。

今回のご出演は次のみなさんです —

- 第1回受賞 松野美樹(トランペット) 東京芸大卒業・四日市出身
- 第2回受賞 広田繁之(テノール) 国立音大卒業・桑名市出身
- 第3回受賞 三山博司(テノール) 東京芸大博士課程後期在学中・四日市市出身
- 第7回受賞 松井麻由美(ソプラノ) 国立音大卒業・鈴鹿市出身
- 第8回受賞 神谷美穂(ヴァイオリン) 京都市立芸大大学院在学中・桑名市出身
- 第10回受賞 大竹由香(フルート) 東京音大4年生・桑名市出身

## 桑名弦楽合奏団



1990年9月に、植村勉氏の指導により結成された市民合奏団である。幅広い年齢層の弦楽器の愛好家が集まり、現在

の団員は30名。バロックから現代までのクラシック音楽のほか、民謡やポップスなど多彩なレパートリーをもち、桑名を中心とした地域で、定期公演、市内巡回コンサート、県や市の文化祭への出演、小学校や福祉施設の訪問など、地域に密着した演奏活動を行っている。これまでに、県内初のCDライブ録音、『国民文化祭』へ県代表として参加、東京カザルスホールでのフェスティバル出演、ヘンデルの「メサイア」公演を実現するなど、いつも新鮮でユニークな企画に挑戦し、演奏は高い評価を受けている。

## 春日井市交響楽団



1990年秋、春日井市に待望の市民オーケストラが音楽ファンによって作られました。名誉会長が鶴飼一郎春日井市長、理事長が長縄功元春日井市議会議長、名誉顧問が川口将一商工会議所名誉会頭、会長は山田和夫中部大学長、

事務局は中部大学にあり三浦昌夫中部大学学監が事務局長を、花村浩克春日井整形外科医院院長が団長を、音楽評論家の都築正道中部大学教授が音楽監督をつとめるなど、官・民・学(大学)・専(専門家)・財(財界)がこぞって支援しています。市の施設ハーモニー春日井で月二回練習。「だれでも参加できる市民オケ・市民に最高の音楽を提供する市民オケ」を目標に、毎年定期演奏会を開いています。今年7月の第7回定演はイタリアからピアニストのアレキサンダー・インチェフ氏を招き、竹本泰蔵さんの指揮でラフマニノフの「ピアノ協奏曲第2番」などを演奏します。毎年12月には春日井市民第九演奏会に出演しています。

## 合唱団シャンテ・クレール

10年前の「日本の第九」公演を記念して作られた「第九記念合唱団」です。そのとき素晴らしい指導力を発揮して桑名の第九を成功に導いた中西正行先生が桑名の音楽

ファンの要請をえていまでも指導にあたっています。本日は全員合唱のリーダーとしてご参加いただきました。

## 都築 正道

本日はお話と指揮をします。中部大学で美学や芸術学を講義しています。桑名西ロータリークラブ会員(鶴田名)。朝

日新聞音楽評担当。月刊「なごや」にオペラ論を連載中。愛環音楽連盟理事長。名古屋オペラサロンを主宰。